

柳原集落 人・農地プラン

市町村名	集落／地域名	当初作成年月日	直近の更新年月日
喜多方市	熊倉町柳原	令和5年3月28日	

1 地域農業の現状

① 農家数	31 戸 (うち集落内 16 戸 うち集落外 15 戸)
② 日本型直接支払の取組	<input checked="" type="checkbox"/> 多面的機能支払(資源向上支払 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無) <input type="checkbox"/> 中山間地域等直接支払
③ 農用地利用改善団体	有 無 (名称:)
地域内の農地の利用状況	
	田 (ha) 畑 (ha) 計 (ha) 割合
④ 集落・地域内の耕地面積	31.2 1.7 32.9
⑤ アンケート調査等により把握した農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	24.8 1.4 26.2 79.6%
⑥ 中心経営体の現在の耕作面積の合計(担い手への集積率)	8.8 26.7%
⑦ 5年後までにリタイア・規模縮小予定の耕作者の耕作面積	1.8 0.0 1.8 5.5%
⑧ 75才以上の農業者の現在の耕作面積	3.7 0.2 3.9 11.9%
ア うち後継者が確保されている耕作者の耕作面積	1.9 0.2 2.1 6.4%
イ うち5年後までにリタイア・規模縮小予定の耕作者の耕作面積	1.8 0.0 1.8 5.5%
⑨ 今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	15.0 45.6%
⑩ ⑨と⑦の面積の差額	13.2 40.1%
(⑩の差額に関する所見)	
当面は現在の担い手でリタイア・規模縮小する農地を引き受けることができる状況にある。	

2 地域農業の課題

① 担い手の育成・確保について	○ 現在担い手に位置付けている農業者だけでは、今後リタイア・規模縮小者が増加した場合にその農地の全てを受け負うことはできないため、新たな受け手の確保を検討する必要がある。
② 担い手への農地の集積・集約化について	○ 担い手の経営農地が分散しており、営農の効率化に向けて解消を図りたい。
③ 農作業の効率化について	○ 個々の農家が農業用機械・施設を保有しているが、老朽化が進んでいる。
④ その他地域農業全体について	○ 集落内で営農している農業者が少ないため、集落外からの担い手の確保も視野に入れながら話し合いを行っていく必要がある。

3 (つづき)現状と課題をふまえた今後の地域農業のあり方

③ 農作業の効率化について	対応
<p><水稲 >の<育苗>の作業については、<担い手>を中心に共同作業を行って効率化を図る。</p>	○
<p>農作業受託組織が基幹的な作業(耕起 代掻き 田植え 稲刈り 乾燥調製 その他())を請け負い、作業の効率化を図る。</p>	
<p>農業機械・施設の共同利用を実施し、過剰投資の抑制と低コスト化・省力化を図る。</p>	
<p>担い手と担い手以外の農業者等の役割を明確化する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 畦畔管理、草刈、防除など、担い手の規模拡大の支障となる<u>日常的な作業は、担い手以外が担う</u></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 地域内の農道、農業用排水路などの管理作業は、<u>担い手と担い手以外の農業者等が共同して地域ぐるみで取り組む</u></p>	○
<p>その他 []</p>	
④ その他地域農業全体についての取組方針	対応
<p>地域ぐるみで共同活動を実施し、農道・用排水路等の維持管理と遊休農地の発生の未然防止を図る。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 多面的機能支払(<input checked="" type="checkbox"/>資源向上支払) <input type="checkbox"/> 中山間地域等直接支払</p> <p><input type="checkbox"/> その他 []</p>	○
<p>地域内に再生可能な遊休農地を利活用できる農業者が見つからない場合は、地域ぐるみで農地の保安全管理((耕転や草刈り等)を行うことで遊休農地の解消・発生防止を図る。</p>	○
<p>野生鳥獣による被害を防止するため、侵入経路や目撃・被害発生箇所のマップ化、効果的な防止対策(電気柵、侵入防止柵、檻の設置など)などを実施する。</p>	
<p>その他 []</p>	